

グループワークでの関わりが生徒間のその後の人間関係に影響を与えるか否か

1200519 松岡 美祐

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要

現在の学校現場においてグループワークを行うことで、生徒同士の人間関係において良い影響を与えることが言われている。しかし、筆者は自身の経験からグループワークは人間関係に良い影響だけを与えるのではないと感じている。そこで、本研究では「グループワークでの関わりがその後の人間関係に好影響か悪影響を与えるか否かを明らかにする」ことを目的として研究を行った。その際、グループワークでの中心的人物に対する他のグループメンバーからの評価を軸としている。研究方法は、3人または4人一組のグループになり天地パズルを用いてグループワークを行った。そのグループワークに対してインタビュー調査を行い、分析を行った。本研究では、グループワークを通じて中心的人物に対する評価として、ポジティブな面とネガティブな面の両方が確認された。しかし、中心的人物に対する評価がポジティブな評価になる条件やネガティブな評価になる条件までは明らかにできていない。

2. 背景

現在の学校教育現場において、いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為など、児童・生徒に関する様々な問題がある。國分(2000)は、構成的グループエンカウンター(structured group encounter, 以下SGEと略)を開発した。SGEの狙いとして國分は、『集団内にリレーション(心と心のふれあい)を作ることと個々が自己発見すること』の2つを目的としていると述べている(1)。加えて佐々木・菅原(2009)では『SGEの持続的な実践は、学校生活満足度、学校生活意欲度、親和動機の向上に効果がある』としている(2)。

さらに、津村(2010)ではラボラトリー方式の体験学習(experiential learning using the laboratory method: ELLM)を用いてグループワークを行うと「クラスへの満足度」や「クラスへの協力度」が有意に上がったことや、「問題行動発生件数」が低下したことからグループワークを行うことは、人間

関係の変化において良い影響を与えているとしている(3)。

筆者が学生の頃、授業中のグループワークを通じて、普段あまり話すことがないクラスメイトと話したりすることで交友の場が広がった経験がある。その一方で、グループワークを通じて友人同士でトラブルが起り疎遠になってしまった経験もある。そのような経験から、グループワークは必ずしも人間関係に良い影響を与えるとは言い難い。そこで、本研究ではグループワークでの人間関係に着目して研究を行っていく。

3. 目的

本研究では、「グループワークでの関わりが生徒間のその後の人間関係に好影響か悪影響を与えるか否かを明らかにする」ことを目的として研究を行っていく。その際、グループワークでの中心的人物に対する他のグループメンバーからの評価を軸にして研究を行う。なお、以下の3つのリサーチクエスションを明らかにする。

Q1:中心的人物に対してポジティブな評価を持つことができるかどうか

Q2:中心的人物に対してネガティブな評価を持つことがあるかどうか

Q3:そうした評価は、グループワークを終えた後の人間関係に影響しうるか否か

4. 研究方法

実験を行い、そのグループワークに関してインタビュー調査を行う。実験には天地パズルを用いた。さらに、インタビュー内容の書きおこしと分析を行い、先ほど挙げた3つのリサーチクエスションを明らかにしていく。

4-1 実験で用いたパズルの内容



(図1:猫のパズル)

実験内容は3人ないし4人1組のグループになり、図1の猫の顔と胴体に、台形1つ、直角三角形(小)3つ、直角三角形(中)1つ、直角三角形(大)1つ、正方形1つ、平行四辺形1つのピースを全て使い隙間なく並べる。それぞれ、台形は直角三角形(小)3つ分、直角三角形(中)は直角三角形(小)2つ分、直角三角形(大)は直角三角形(小)3つ分、正方形は直角三角形(小)2つ分、平行四辺形は直角三角形(小)2つ分で作ることができる。そのため、一見正しく当てはまっているように見えて、正しく当てはまっているかは分からない。

(著作権の関係でモザイクをかけている)

4-2 実験①

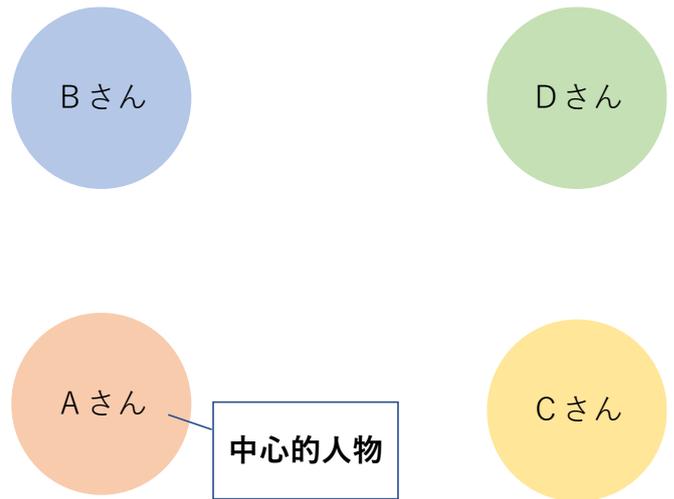
実験①は、2019年12月9日(月)に実施した。実験対象者は高知工科大学の学生3名である。実験①の中心的人物は力丸さんだった。実験①では、たくみさんが、力丸さん(中心的人物)に対してどのような評価を持つかについて明らかにしていく。



(図2:実験①の対象者)

4-3 実験②

実験②は、2020年1月9日(木)に実施した。実験対象者は高知工科大学の学生1名、高知大学の学生3名である。実験②の中心的人物はAさんだった。実験②では、BさんとCさんが、Aさん(中心的人物)に対してどのような評価を持つかについて明らかにしていく。



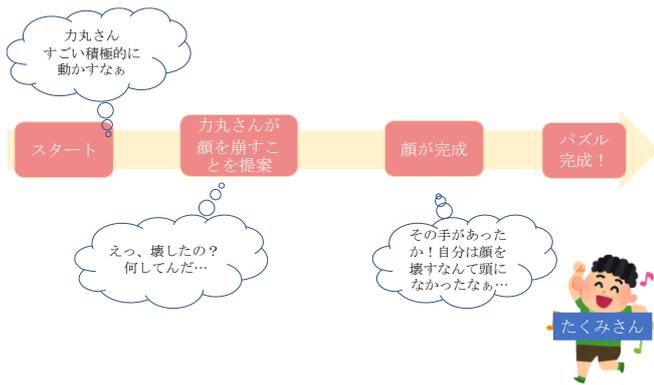
(図3:実験②の対象者)

5. 結果

5-1 実験①の結果(実験の流れと感情)

まず、実験①の流れとたくみさんが力丸さんに対して抱いた感情について述べる。

たくみさんはグループワークが始まったと同時に「力丸さんに対しすごく積極的にパズルのピースを動かすな」という印象を抱いていた。実験①の中盤、なかなか上手くはめることができずパズルが進んでいなかったところで力丸さんが猫の顔の部分一度壊すことを提案した。これに対したくみさんは「なぜ猫の顔を壊したのか」と疑問に思った。しかしその後、猫の顔の部分壊したことがきっかけで新しい見方ができ、無事に猫の顔を完成させることができた。たくみさんには、「完成していた顔の部分を壊すという発想はなかった」という。猫の顔が完成したことで、胴体も完成させることができ、パズルは完成した。



(図4:実験①の流れとたくみさんの感情)

5-2 実験①の結果(たくみさんへのインタビュー調査の内容と分析)

グループワーク終了後にたくみさんに対し、インタビュー調査を行った。以下はそのインタビューの内容を簡潔にまとめたものである。

たくみさんは、グループワーク以前から力丸さんと関わりがあり、普段の学校生活等の力丸さんに対してあまり積極的に活動するというイメージを持っていなかった。どちらかというと、保守的な印象があり、今できているものを壊すという思い切った発想をするとは思わなかった。しかし、今回のグループワークで力丸さんがパズルを始めたと同時に積極的にパズルのピースを動かしたところや、猫の顔の部分壊そうという提案をした力丸さんを見て、たくみさんは力丸さんの新たな一面を発見することができた。

実験①を通じて、リサーチクエスションの Q1 と Q3 を明らかにすることができた。だが、実験①を通じて Q2 を明らかにすることはできなかった。

Q1: 中心的な人物に対してポジティブな評価を持つことができるかどうか

A1: 積極的な一面を発見できたというポジティブな面での印象の変化が起こった

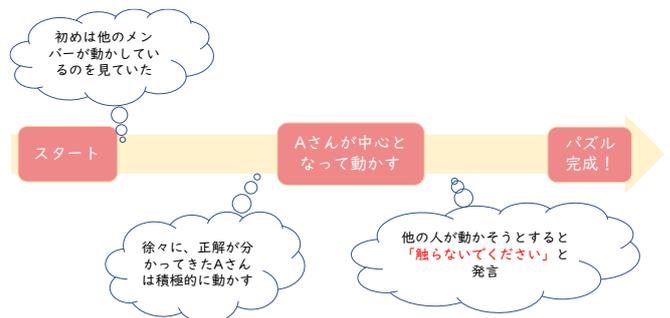
Q3: そうした評価は、グループワークを終えた後の人間関係に影響しうるか否か

A3: 今まで2年ほど関わっていた印象が、10分間のグループワークで「積極的な一面もある」という印象に変化した。たくみさんは今回の実験とセットで力丸さんに対しての過去2年間の印象を思い出すことが示唆される。このことから、そうした評価はグループワークを終えた後の人間関係に影響が及び続けることが分かった。

5-3 実験②の結果(実験の流れと中心的人物の言動)

まず、実験②の流れと A さん(中心的人物)の言動について述べる。

A さんはグループワークが始まってすぐはあまり積極的に動かず、他のメンバー3名がピースを動かしているのを見ていた。しかし、徐々に正解が分かってきた A さんは積極的にパズルのピースを動かす始めた。グループワーク後半では、他の人が動かそうとすると「触らないでください」と発言する場面もあった。その後は、A さんが中心となりピースを動かす、パズルが完成した。



(図5:実験②の流れとAさん(中心的人物)の言動)

5-4 実験②の結果(BさんとCさんへのインタビュー調査の内容と分析)

グループワーク終了後に、BさんとCさんに対してインタビュー調査を行った。

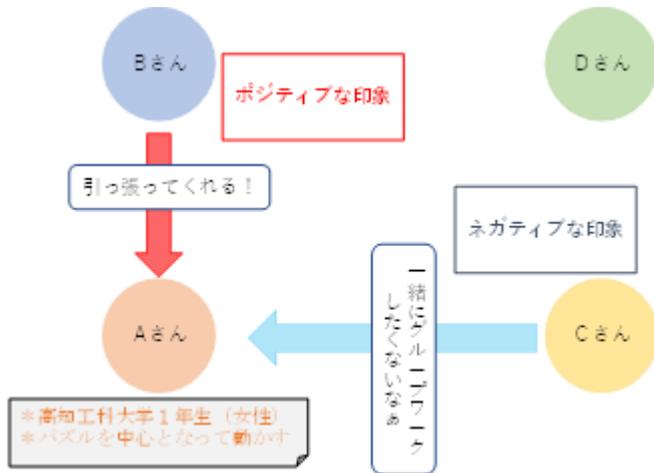
以下に書くのは、Bさんのインタビュー内容である。

BさんはAさんに対し、話さないイメージは持っていなかったものの、人を積極的に引っ張っていく印象は持っていなかった。しかし、今回のグループワークを通じて積極的にパズルのピースを動かす、グループを引っ張ってくれるAさんに対し、ポジティブな印象を持った。

以下に書くのは、Cさんのインタビュー内容である。

Cさんはグループワーク以前からAさんに対して、自分の意志を持っている人だという印象を抱いていた。Cさんは、みんなで協力してパズルを完成させようと思いながら今回のグループワークに挑んでいたが、「触らないでください」とAさんが発言したことから、グループワークをする必要性を感じられなかった。また、CさんはAさんとは一緒にグループワークをしたくないと発言した。

以上のインタビュー結果から、BさんはAさんに対し「グループを引っ張ることが出来る」というポジティブな印象を持った。しかしそれに対し、CさんはAさんに対し「一緒にグループワークをしたくない」というネガティブな印象を持った。



(図 6:実験②のインタビュー調査の分析結果)

実験②を通じて、3.目的の Q1～Q3 全てを明らかにすることができた。

Q1:中心的な人物に対してポジティブな評価を持つことができるかどうか

A1:BさんがAさんに対し「グループを引っ張ることが出来る」という印象を持ったことからポジティブな面で印象の変化が起こった

Q2:中心的な人物に対してネガティブな評価を持つことができるかどうか

A2:CさんがAさんに対し「もう一緒にグループワークをしたくない」と思ったことからネガティブな面での印象の変化が起こった

Q3:そうした評価は、グループワークを終えた後の人間関係に影響しうるか否か

A3:Cさんはグループワーク終了後のインタビュー調査でAさんとは「一緒にグループワークをしたくない」と発言していることから未来のことを想像しながら話をしていた。こうしたことから、今回のグループワークで抱えた中心的な人物に対する評価は継続して今後の人間関係に影響しうるということがいえる

6. 考察

本研究では、グループワークを通じて同じ中心的な人物に対する評価として、ポジティブな面とネガティブな面の両方が確認された。

先行研究ではグループワークを通じて、生徒同士の関係が良くなり結果的に「クラスへの満足度」が高くなったり「問題行動発生件数」が低下したりとポジティブな面での位置づけがなされていた。しかし、本研究を通じてネガティブな評価を持ち、またそれが今後の人間関係に影響しうるということが分かった。

グループワークを用いた人間関係作り授業で人間関係の構築を行うことは大切だが、必ずしもいい影響を及ぼすわけではない。教員はそのことを理解してグループワークを用いる必要がある。グループワークを授業で用いた際は、生徒の授業の理解度を机間巡視で見ただけではなく、生徒の表情や姿勢をよく見ることでグループワークに対しネガティブな印象を持っていないかを見る必要がある。

7. 今後の課題

本研究を通じて、中心的な人物に対する評価にはポジティブな面とネガティブな面があることが分かった。しかし、ポジティブな評価をする条件や、ネガティブな評価をする条件までは明らかにすることができていない。したがって、今後の課題としては中心的な人物に対し、ポジティブな評価を持つ条件とネガティブな評価を持つ条件に関して研究を行う必要がある。

引用文献

- (1)2001 第一回学習会(4/14)資料 02「構成的グループエンカウンターとは何か？(Structured Group Encounter=SGE)
- (2)佐々木正輝・菅原正和 2009 「小学校における学校心理学的援助の方法と構成的グループエンカウンター(SGE)の有効性」
- (3)津村俊充 2010 「グループワークトレーニング～ラボラトリー方式の体験学習を用いた人間関係づくり授業実践の試み～」